

令和2年度

事業報告書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

令和2年度事業報告

令和2年3月に兵庫県内で初めて感染者が報告された新型コロナウイルス感染症は、緊急事態宣言が繰り返し発出されるなど、社会生活に大きな影響をもたらし、三密（密閉・密集・密接）の回避や身体的距離（ソーシャルディスタンス）の確保、在宅勤務（テレワーク）や時差出勤、オンライン会議の導入など、これまでとは大きく転換した「新しい生活様式」が求められた。

一方、外出や地域活動の自粛により、個々人の健康的な生活習慣の維持が困難となるとともに、健康診断やがん検診の受診控えによる健康への影響が指摘されるなど、一人ひとりが健康への意識を高めることの大切さも強く呼びかけられた。

当財団においても、昨年4月には約1か月半の事業休止を余儀なくされるなど、厳しい経営環境となったが、三密の回避やマスクの着用、定期的な室内換気や消毒の徹底などの感染防止対策を十分に行うとともに、動画配信やオンラインによる事業展開も取り入れつつ、「県民の総合的な健康づくりのパートナー」を目指して、兵庫県や関係団体との連携の下、事業を推進した。

また、兵庫県が設立した『ひょうご新型コロナウイルス対策支援基金～新型コロナウイルスと闘う人たち応援プロジェクト～』のための口座を当財団内に開設し、適切に資金管理を行った。

1 健康づくり実践活動の支援

個人の努力とあわせて社会全体で健康づくりを支援する「健康ひょうご21県民運動」を推進するため、参画団体、健康づくり推進員等との協働により、健康づくりの基盤となる「健康チェック」の実践、生活習慣の見直し等を通じた健康づくり運動を全県内で展開した。

とりわけ、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集客による講演会・研修会等の開催を見合わせる一方で、「健康ひょうご21県民運動ポータルサイト」からの情報発信を強化し、県民運動20周年記念ページの作成や、コロナ禍における健康づくりの推進に関する情報発信に力を入れ、県民運動のさらなる発展と推進員活動の強化を促した。同時に、健康づくり情報を多くの人に向けて発信することにより、コロナ禍においても県民の健康づくりが実践されるよう働きかけた。

また、企業の従業員や家族及び幼稚園、保育所等の幼児と保護者等への啓発事業を展開し、県民総ぐるみの健康づくりを推進した。

2 疾病予防等の普及啓発

県民の健康づくりに関する有用な情報や、財団の事業内容を幅広く紹介するため、広報紙「プレベ」やホームページによる広報を行ったほか、生活習慣病、結核、がん等の予防をはじめ、母子保健、臓器移植や献血に関する正しい知識の普及と意識の向上及び実践を目的として、オンラインによる講演会や講義を収録した DVD の貸出しによるセミナーの開催、ポスター掲示や WEB 広告によるキャンペーン事業等の啓発活動を行うとともに、健康づくりや疾病予防の各分野における功労者の表彰を行った。

また、がん等の医療に携わる専門職が行う研究の奨励を行い、医療技術の向上の支援に努めた。

3 健診・生活習慣等改善指導の実施及び調査研究の推進

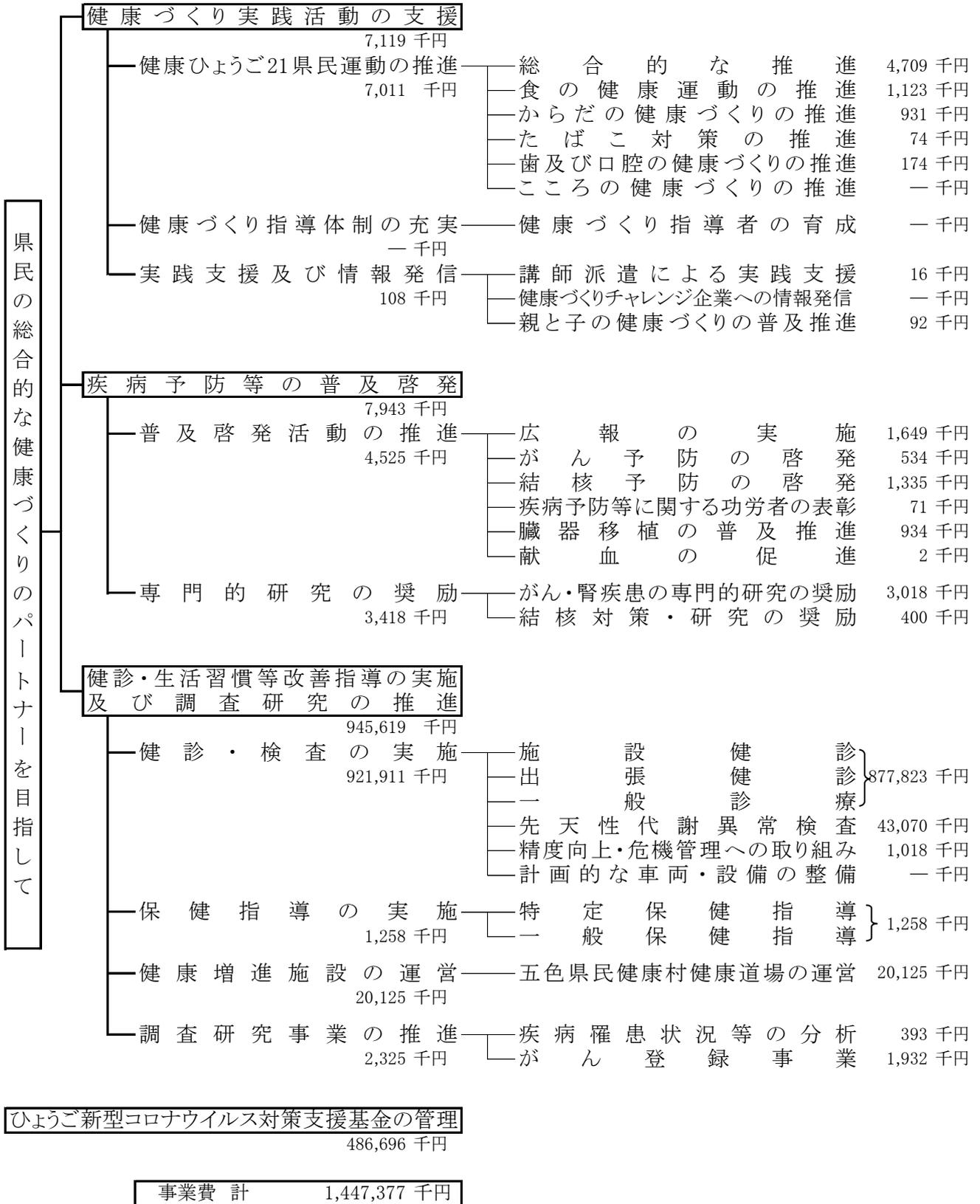
受診者の視点に立った「安全・安心でかつサービスの行き届いた健康診断」を提供するため、健診精度の維持・向上に努めつつ、感染防止対策を徹底しながら、県内全域の地域・職域・学校において幅広い年齢層を対象に健診・保健指導事業を実施するとともに、企業の従業員を対象としたストレスチェック及びその結果に基づく評価を実施した。

また、五色県民健康村健康道場においては、3 人部屋、5 人部屋をシングルユースとするなど、三密を回避したうえで、県民のこころと身体の健康づくりを支援する実践施設として事業を実施した。

さらに、公益財団法人として県内の公衆衛生の向上に寄与するため、健診や生活習慣改善指導事業等の実施状況及び精密検査受診者の追跡調査により得られたデータを集計し、「事業年報」として情報発信するとともに、県内のがん罹患情報を収集し、兵庫県のがん予防対策の基礎資料として活用を図った。

令和2年度事業体系

(人件費・減価償却費を除く)



I 健康づくり実践活動の支援

1 健康ひょうご 21 県民運動の推進

(1) 総合的な推進

① 健康ひょうご 21 県民運動推進会議総会等の開催（県補助事業）

重点活動目標や事業計画を決定するとともに、健康づくりの普及・実践を促進するため、健康ひょうご 21 県民運動推進会議総会を開催した。

また、全県の事業実施状況を共有し、次年度の目標等を検討するため各部長会長及び各地域会議会長等を構成メンバーとする合同会議を開催した。

総 会 : 令和 2 年 5 月 25 日（月）（書面開催）

合同会議 : 令和 3 年 3 月 12 日（金）（書面開催）

② 健康ひょうご 21 県民運動推進フォーラムの開催（中止）

県民運動の開始から 20 年目の節目として計画していた「健康ひょうご 21 県民運動 20 周年記念フォーラム」については、新型コロナウイルス感染拡大により中止としたが、県民運動ポータルサイトに記念ページを開設し、推進会議会長からのメッセージやこれまでの参画団体の健康づくり活動等を紹介した。

③ 健康ひょうご 21 県民運動地域会議総会等の開催（県補助事業）

地域会議総会については、書面による開催・決議とするとともに、講演会等に替えて、リーフレットにより「コロナ禍における健康づくり」等の情報提供を行った。

④ 健康づくり推進員の設置・養成（県補助事業）

ア 健康づくり推進員の設置・養成

健康づくりの担い手を養成するため、県民運動参画団体から推薦を受けた人を対象に「健康づくり推進員支援ガイド」を活用しての通信による研修等を実施し、その修了者に健康づくり推進員（健康ひょうご 21 県民運動推進員・8020 運動推進員、食の健康運動リーダー）を委嘱した。

区 分	人数(R3.4.1 現在)	うち新任者数
県民運動推進員・8020 運動推進員	1,813 人	256 人
食の健康運動リーダー	911 人	72 人

イ 健康づくり推進員フォローアップ研修会等の開催

健康づくり推進員の資質向上を図るとともに、活動に関する意見交換や推進員相互の交流を促進するため、参加人数の制限やオンラインによる開催等、十分な感染防止対策のもと、フォローアップ研修会等を開催した。

【全県】

開催日・場所	内 容	参加人数
10月15日(木) 11:00~13:00 神戸ポートピアホテル	「Dr.家森と楽しむ世界の健康長寿食」ランチセミナー ・講話「フランス料理は長寿食か?-カナダに学ぶ食べ方上手-」 健康ひょうご21県民運動推進会議会長 家森 幸男 氏 ・ランチタイム 「カナディアンフレンチの長寿食を楽しもう」 神戸ポートピアホテル総料理長 岸本 貴彦 氏	46人
2月1日(月) ~28日(日) オンデマンド配信	健康づくりチャレンジ講座「働く世代のがんセミナー」 ・講演「がんについて 知る・伝える・動き出す」 国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策情報センター長 若尾 文彦 氏 ・情報提供「治療と仕事の両立支援の進め方」	視聴者数 (アクセス数) 308回

【各地域】

地 域	開催日・場所	内 容	参加人数
阪神南	12月10日(木) 尼崎商工会議所 (書面開催)	・講演「こころの健康について - ストレスとその対処法 -」 兵庫県精神保健福祉センター所長 酒井 ルミ 氏 ・情報提供「結核とCOPDの基礎知識」 ・健康体操	64人
阪神北	10月29日(木) 東りいたみホール	・講演「災害時の口腔ケアの重要性について -with コロナに向けて-」 ときわ病院歯科口腔外科部長 足立 了平 氏 ・健康体操	82人
東播磨	11月5日(木) あかし市民広場	・講演「歯の力は命の力」 (公社)兵庫県歯科衛生士会東播磨支部 明石地区顧問 上手 道子 氏 ・情報提供「がん検診受診について」 ・講演「予防? 様子見? 治療? 生活習慣病とどうつき あえばいいの?」 鈴木内科クリニック 鈴木 光太郎 氏 ・健康体操	55人
北播磨	11月11日(水) 兵庫県社総合庁舎	・講演「With コロナ時代の口から始まる健康長寿」 ときわ病院歯科口腔外科部長 足立 了平 氏 ・情報提供「COPD 予防について」 「食の力を活かしたフレイル予防について」 ・健康体操「健康づくり身体活動の最新情報」	46人
中播磨	11月4日(水) 市川町保健福祉 センター	・講演「高齢者の低栄養・フレイル予防」 ~食事摂取基準 2020 年度版から考える~ 武庫川女子大学栄養科学研究所 谷野 永和 氏 ・情報提供「結核の常識」 ・健康体操	60人

地 域	開催日・場所	内 容	参加人数
西播磨	10月14日(水) 太子町文化会館	・講演「危機管理は健康管理」 甲南女子大学名誉教授 奥田 和子 氏 ・情報提供「数字で見るたばこの害について」 ・健康体操	116人
但馬	10月28日(水) 兵庫県立 但馬長寿の郷	・講演「コロナストレス」の対処法ーコロナ疲れによる こころの不調の予防と対処ー 兵庫県立大学名誉教授 近澤 範子 氏 ・講話「お口のケアで免疫力アップ」 ・健康体操	52人
丹波	10月2日(金) 丹波の森公苑	・講演：「新型コロナウイルス感染症」 ～私たちひとりひとりに出来ること～ 兵庫県健康財団保健検診センター医監 熊谷 仁人 氏 ・情報提供「数字で見るたばこの害」 ・健康体操	54人
淡路	10月8日(木) 兵庫県洲本総合庁舎	・講演「ライフスタイルからみる睡眠」 関西看護医療大学教授 伊木 智子 氏 ・8020運動の推進について ・健康体操	76人
	9か所		605人

ウ 健康づくり推進員による実践活動

健康づくり推進員を中心として地域における健康づくりの普及や実践活動を展開したほか、幼児の保護者等に対する調理実習など、食の健康運動の推進活動を行った。

区 分	取組件数	延参加人数
県民運動推進員・8020運動推進員	18,553件	288,575人
食の健康運動リーダー	1,461件	174,075人

エ 健康づくり推進員の活動支援

県民運動の概要、取組事例、健康情報の紹介とともに、日頃の健康チェック及び健康づくり活動について記録ができる「健康づくり推進員活動支援ガイド」やポータルサイトを活用し、健康づくり推進員の活動の支援と活性化を図った。

⑤ 参画団体の活動支援

ア 健康マイプラン実践講座（県補助事業）

県民運動参画団体等が実施する健康づくりの講演会や研修会等に登録講師（専門人材）を派遣し、参画団体等における健康づくりの実践を支援した。

派遣回数	参加人数
24回	1,450人

※ (6)こころの健康づくりの推進に係る実践講座を含む。

イ 地域実践活動への助成

県民運動参画団体等が行う有意義な健康づくり実践活動に助成し、地域における県民の健康づくりの実践活動を支援した。

地 域	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	丹波	計
件 数	2	4	4	1	1	3	3	18
助成額 (千円)	40	116	198	40	50	150	150	744

⑥ 働き盛り世代の健康づくりの推進

働き盛り世代の健康づくりを推進するため、職域に関わる参画団体と協働し、企業や団体等の経営者や健康づくり担当者等向けの「健康づくりチャレンジ講座」を開催した。

※再掲「健康づくり推進員フォローアップ研修会」と兼ねて実施

⑦ 健康づくり情報の発信

健康ひょうご 21 県民運動ポータルサイトにおいて、「コロナ禍における健康づくり情報」や「健康づくり実践シリーズ（運動・食生活）」、新型コロナウイルス関連情報を含め、最新の健康づくりに関する情報を「健康づくり情報・基礎知識」として発信した。

また、参画団体や健康づくり推進員の実践活動、健康づくりに関する情報等を財団広報誌「プレベ」に掲載し、参画団体等の活動を支援したほか、9地域会議の活動等の情報を支部だよりで発信した。

(2) 食の健康運動の推進

① 食の健康運動リーダーの設置

食の健康運動リーダーを活用し、各地域において食の健康運動を推進した。

② 食生活改善事業の実施

ア 食生活リーフレットの作成

「元気なからだと暮らしは食生活から」、「あなたに合った減塩の方法を見つけましょう」のリーフレットを作成、健康づくり推進員等に配付し、活動を支援した。

イ ヘルシー弁当キャラバン

企業等を訪問してのランチセミナーは中止し、コロナ禍の新しい生活様式に応じた「ちょっとひと手間でヘルシースピードランチ」リーフレット 5種を作成し、県民運動ポータルサイトから情報発信を行った。

③ 食育コンサートの開催

県内各地域で幼稚園・保育所等の幼児や保護者等を対象に、「大豆のうた」や踊り、クイズ等を通じて、早寝早起き、朝食の摂取による規則正しい食生

活やバランスのとれた食事の大切さ、栄養源の豊富な野菜や大豆の摂取などを啓発した。

加えて、歯みがき指導による、幼児、保護者、保育関係者への歯及び口腔の健康づくりの普及・啓発を行った。

担当支部	開催日	実施団体	参加（人）		
			幼児等	保護者等	合計
神戸	10月23日（金）	神戸市立神戸幼稚園	92	9	101
阪神北	10月6日（火）	わかばのもり保育園（宝塚）	53	8	61
阪神北	11月17日（火）	伊丹はぐくみ南野保育園	49	11	60
東播磨	10月27日（火）	明石市立江井島幼稚園	136	12	148
北播磨	10月20日（火）	河高こども園	37	6	43
但馬	10月29日（木）	養父市立こども園	104	48	152
丹波	11月6日（金）	たんなん子育てふれあいセンター	23	19	42
淡路	10月14日（水）	聖隷こども園夢舞台	106	12	118
計	8回		600	125	725

※ 中播磨、西播磨の2か所は中止

(3) からだの健康づくりの推進（県補助事業）

メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームの予防を目指し、運動の実践と習慣化を促進するための学習会を開催し、今より10分多く毎日からだを動かす+10分（プラス・テン）、「“脱” 座りすぎ生活」の啓発等を図り、からだの健康づくりを推進した。

学習会開催回数	参加人数
14回	981人

(4) たばこ対策の推進

「受動喫煙の防止等に関する条例」の趣旨を踏まえ、広報資材の配付、研修会等を通じて、たばこによる健康への悪影響、COPDなどの啓発、妊産婦や未成年の喫煙防止等を推進した。

研修会開催回数	参加人数
10回	560人

(5) 歯及び口腔の健康づくりの推進（県委託事業）

8020運動推進員による啓発活動をはじめ、各種講演会や啓発資材の配付等を通じて、乳幼児期・学齢期・成人期・高齢期のう蝕予防や歯周病予防、歯の喪失防止に向けた8020運動を推進した。

また、8020 運動推進員の資質向上を図るため、研修会を開催した。(併せて口腔がんに関する情報提供や口腔の筋機能の低下を予防する体操等を実施。)

研修会開催回数	参加人数
6 回	496 人

(6) こころの健康づくりの推進

健康づくり推進員フォローアップ研修会の開催や健康マイプラン実践講座の実施等により、コロナストレスやこころの不調の予防と対処、笑いや認知症予防、適切な睡眠などのこころの健康づくりを推進した。

実践講座等実施回数	参加人数
4 回	224 人

2 実践支援及び情報発信

(1) 講師派遣による実践支援

市町、地域団体、事業所等が実施する健康づくり教室、イベント等に、当財団の専門スタッフ(保健師、健康運動指導士、管理栄養士、臨床心理士等)を講師として派遣し、講演や実技指導を実施した。

派遣回数	指導延人数
11 回	343 人

(2) 健康づくりチャレンジ企業への情報発信

積極的に従業員や家族の健康づくりに取り組もうとする「健康づくりチャレンジ企業」に対し、兵庫県と締結した「健康づくり応援協定(健康づくり推進サポート企業)」に基づき、メールマガジンの定期発行や財団ホームページでの健康情報の提供を行った。

- ・メールマガジンの発行 10 回

II 疾病予防等の普及啓発

1 普及啓発活動の推進

(1) 広報の実施

① 広報誌「プレベ」の発行

健康づくりに関する情報等の発信や財団事業を効果的に広報するため、広報誌「プレベ」を作成し、関係機関を通じ広く県民に配布した。

- ・発行時期 9 月・3 月(計 2 回)

- ・発行部数 22,000部
- ・配布先 行政機関、健診顧客、健康ひょうご21県民運動参画団体及び県民運動推進員、関連イベント参加者、神戸市営地下鉄各駅等

② 団体の会報、広報紙等への情報提供

医療保険者等が発行する会報や広報誌に、健康に関する情報を定期的に掲載することにより、県民の健康づくりを支援した。

- ・4団体 延べ14回掲載

③ ホームページによる情報発信

スマートフォンにも対応したホームページにより、人間ドックメニューの紹介や講演会等のイベント開催、健康コラムの掲載等、財団の事業内容や健康づくりに役立つ情報を発信した。

(2) がん予防の啓発

① がん征圧月間行事の実施

がん征圧月間（9月）の期間中、がん予防等について広く県民に意識啓発を行った。

ア ポスターによる普及啓発

日本対がん協会が作成した「がん征圧月間ポスター」を行政機関、医療関係団体等に配布した。

イ 懸垂幕の掲示

財団荒田事務所において懸垂幕を掲示し、征圧月間の周知を図った。

② がん征圧寄附金募集活動等による啓発の実施

がん予防のための普及・啓発活動や、若手研究者へのがん研究助成の原資とするための寄附金を募るとともに、同活動を通じてがん検診の受診勧奨などの啓発活動を展開した。

件数	金額
241件	1,070,573円

③ がん検診啓発及びがん患者支援の実施

がん患者支援・がん検診啓発チャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」に参画し、その活動を支援した。

実施日	イベント名	主催	会場	内容
9月5日(土) ～6日(日)	リレー・フォー・ライフ・ジャパン 芦屋2020	リレー・フォー・ライフ芦屋 実行委員会、 日本対がん協会	芦屋市 川西運動場	がん啓発講演会 サバイバーウォーク
11月7日(土) ～8日(日)	リレー・フォー・ライフ・ジャパン 神戸2020	リレー・フォー・ライフ神戸 実行委員会、 日本対がん協会	神戸市みなとの もり公園	サバイバーウォーク (一部オンライン配信)

④ 働く世代のがんセミナーの開催

「健康づくりチャレンジ講座」において、働く世代を対象にがんセミナーを開催した。

※再掲「健康づくり推進員フォローアップ研修会」と兼ねて実施

(3) 結核予防の啓発

① 結核予防週間行事の実施

結核予防週間(9月24日～30日)の期間中、結核予防について広く県民に意識啓発を行った。

ア ポスター等による普及啓発

結核予防会が作成したポスターやパンフレット等を婦人会、医療機関、地方公共団体等に配布したほか、神戸市営地下鉄全26駅構内に「結核予防週間ポスター」を掲示した。

媒体	内容	配布部数
ポスター	結核予防週間	700部
パンフレット	結核の常識2020	14,000部
結核予防会機関誌「複十字」(年6回)		1,860部

イ 懸垂幕の掲示等

財団荒田事務所において、懸垂幕を掲示し、予防週間の周知を図った。

また、WEBバナー広告に加え、財団ホームページ、健康ひょうご21県民運動ポータルサイトを活用した啓発を行った。

② 複十字シール運動募金活動等による普及啓発

兵庫県連合婦人会等関係団体の支援を得て、結核の制圧及びその他胸部疾患の予防に向けて、その活動に必要な資金を確保するための募金活動及び公益財団法人結核予防会が実施する複十字シール運動募金活動を通じて結核等に対する理解を深める啓発活動を展開した。

件数	金額
332件	1,244,000円

(参考:上記以外の(公財)結核予防会への複十字シール運動募金 185件 1,248,685円)

③ 出版物の斡旋

結核に関する正しい知識の普及を図るため、結核予防会発行の各種専門図書を保健所、病院、個人等に広く斡旋した。

・斡旋数 20種類 669冊

(4) 疾病予防等に関する功労者の表彰

多年にわたり、公衆衛生の向上に資する事業の推進に貢献し、その功績が顕著な個人、団体を表彰した。

① がん予防功労者

氏名	職種	推薦団体
高橋 洋二	医師	尼崎市医師会
富永 了	医師	神戸市中央区医師会
山下 展弘	臨床検査技師	兵庫県臨床検査技師会

② 結核予防功労者

氏名	職種	推薦団体
平林 弘久	医師	宝塚健康福祉事務所

③ 健康づくり功労者

〔個人〕

氏名	職種	推薦団体
國部 伸也	医師	姫路市医師会
佐々木 健陽	医師	西宮市医師会
山田 博	医師	神戸市中央区医師会
足立 秀	医師	朝来健康福祉事務所
井上 暁	歯科医師	兵庫県歯科医師会
濱田 雅子	歯科衛生士	兵庫県歯科衛生士会
河内 清美	管理栄養士	兵庫県栄養士会
森口 一也	鍼灸師	兵庫県鍼灸師会

〔団体〕

団体名	推薦団体
兵庫県給食施設協議会	兵庫県健康福祉部健康局健康増進課
出合校区協議会	健康ひょうご 21 県民運動但馬会議

④ 母子保健功労者

氏名	職種	推薦団体
小田 豪	医師	たつの市・揖保郡医師会
伊藤 進一	医師	尼崎市医師会
菅原 実加子	一般	たつの市
岸本 喜代子	助産師	兵庫県助産師会

(5) 臓器移植の推進

① 臓器移植の普及（県補助事業）

臓器提供意思表示の普及を促すため、啓発資材を作成・配布した。

② いのちの勉強会の開催（県補助事業）

臓器移植医療に関する正しい知識の普及・啓発を行い、臓器移植の一層の定着・推進を図るため、講演を収録・DVD化し看護系学校（4校）へ貸出した。

テーマ「LIVING WILL」～臓器提供を考える～

・臓器移植ミニ講座

兵庫県臓器移植コーディネーター 杉江 英理子 氏

・講演「いのちの贈りもの」

神戸大学医学部附属病院肝胆膵外科助教 蔵満 薫 氏

・講演「家族それぞれの思い」 ドナー家族 様

③ 臓器移植希望者への支援(県補助事業)

臓器移植希望者の経済的負担を軽減するため、希望者の組織適合検査に要した経費の一部を助成した。

・組織適合検査助成 52件 520,000円

④ 骨髄移植の普及推進

骨髄移植の普及を図るため骨髄ドナー登録啓発資材をドナー登録会等で活用した。

2 専門的研究の奨励

(1) がん・腎疾患の専門的研究の奨励

がん及び腎疾患の予防と診断・治療に役立つ専門的研究の進展に寄与するため、研究奨励賞を贈呈した。

① がん研究奨励賞（総額 250万円）

氏名	所属	研究題目
窪田 光	神戸大学医学部 附属病院	がん特異的免疫応答を誘導するナノ粒子を併用した新規免疫放射線治療の開発
神田 修治	兵庫医科大学	唾液腺癌における Bio-Bank の作製と融合遺伝子の解析
酒井 新	神戸大学医学部 附属病院	膵がん形成におけるホスホリパーゼ C ϵ (PLC ϵ) の機能解析と新規治療法の探索
吉村 奈穂美	兵庫医科大学	がん局所療法後の抗腫瘍免疫応答を利用した新規治療戦略の開発
難波 渚	兵庫県立尼崎総合医療センター	化学療法投与中の患児における口腔内粘膜炎に関する研究

※ 題目の「癌・がん」表記は申請原文のまま。

② 腎研究奨励賞（総額 50 万円）

氏名	所属	研究題目
能勢 勇馬	神戸大学医学部 附属病院	FGFを含めたCKD-MBDパラメーターと心機能の 関連（心肥大モデルマウスを用いて）
角谷 学	兵庫医科大学	代謝疾患における睡眠の質、無呼吸及び自律神経機 能の相互関連とその腎機能低下に及ぼす影響に関 する前向き研究

(2) 結核の専門的研究の奨励（総額 40 万円）

チーム名	研究題目
淡路圏域結核等感染対策推進看護 チーム	淡路圏域における看護職が取り組む結核等感染予 防対策の推進について

※ 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、健康づくり指導者の育成、親と子の健康づくりの普及推進、健康づくり関連イベント等への参画、がん・結核セミナー、がん・生活習慣病講演会、結核予防啓発のための街頭活動、献血の促進の各事業については、その実施を中止した。

Ⅲ 健診・生活習慣等改善指導の実施及び調査研究の推進

1 健診・検査の実施

(1) 施設健診

特定健康診査やがん検診をはじめ、学校保健安全法、労働安全衛生法等に基づく健康診断のほか、口腔健診を組み込んだ人間ドックコースの充実を図るなど、多様化する受診者ニーズに応じた人間ドックを実施し、県民の生活習慣病の予防及び早期発見を支援した。

なお、令和2年4月13日から5月24日の期間、受診者の受入を休止した。
(実施団体数 1,787 団体)

健 診 種 別		令和2年度 (件)	令和元年度 (件)	対前年度比 (%)	
集団 検診	学 校 健 診	857	833	102.9	
	住 民 健 診	534	645	82.8	
	事業所健診	一般健康診断(就学・就職)	527	594	88.7
		定期健康診断等	14,040	15,491	90.6
	小 計	15,958	17,563	90.9	
人間 ドック	1泊2日人間ドック	86	122	70.5	
	半日人間ドック	5,642	5,766	97.8	
	兵庫県2時間人間ドック	296	405	73.1	
	脳ドック [再掲]	(240)	(269)	89.2	
	P E T 検 診 [再掲]	(12)	(19)	63.2	
	胃内視鏡検査 [再掲]	(2,902)	(3,185)	91.1	
	乳腺超音波検査 [再掲]	(2,648)	(2,929)	90.4	
	口 腔 健 診 [再掲]	(92)	(124)	74.2	
	レディースドック [再掲]	(713)	(674)	105.8	
全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診	8,082	8,698	92.9		
一 般 健 診	(7,755)	(8,389)	92.4		
一般健診＋付加健診	(327)	(309)	105.8		
小 計	14,106	14,991	94.1		
ス ト レ ス チ ェ ッ ク	1,245	1,269	98.1		
合 計	31,309	33,823	92.6		

注1)脳ドック、PET検診、胃内視鏡検査、乳腺超音波検査、口腔健診は、人間ドックの各コースの付加につき再掲

注2)レディースドックは、女性専用日を利用した受診者で再掲

(2) 出張健診

市町や地元商工会議所・商工会との連携等により、事業所従業員や被扶養者をはじめ幅広い層を対象とした健診受診機会を提供するとともに、検査項目の追加などにより、質の高い健診を積極的に推進したほか、労働安全衛生法に基づくストレスチェックを健診時にあわせて実施した。

なお、緊急事態宣言により、4月～6月に計画していた健診の大部分が中止や延期を余儀なくされたが、宣言解除後は健診の全日化をはじめ、休日、冬期間を活用して、必要な健診機会の確保に努めた。

① 学校健診（実施校数 48校、2教育委員会）

健診種別	令和2年度(件)	令和元年度(件)	対前年度比(%)
結核検診	23,525	25,784	91.2
心臓検診	6,072	5,571	109.0
腎臓検診	17,034	19,614	86.8
診察・身体計測等	16,714	14,342	116.5
合計	63,345	65,311	97.0

② 住民健診（実施市町数 20市町）

健診種別	令和2年度(件)	令和元年度(件)	対前年度比(%)	
結核検診	57,768	74,754	77.3	
特定健康診査 (生活習慣病健診等を含む)	14,983	21,214	70.6	
心電図検査	(6,992)	(9,190)	76.1	
眼底検査	(5,767)	(7,757)	74.3	
貧血検査	(11,505)	(15,125)	76.1	
胃がん検診	20,218	27,937	72.4	
肺がん検診	53,477	71,000	75.3	
大腸がん検診	16,702	21,216	78.7	
子宮頸がん検診	11,470	15,051	76.2	
乳がん検診	視触診	1,145	1,122	102.0
	マンモグラフィ	8,630	10,696	80.7
前立腺がん検診	5,750	7,524	76.4	
骨粗鬆症検診	2,369	2,541	93.2	
肝炎検査	1,513	2,456	61.6	
腹部超音波検査	3,990	12,082	33.0	
合計	198,015	267,593	74.0	

③ 事業所健診（実施団体数 1,976 団体）

健診種別		令和2年度(件)	令和元年度(件)	対前年度比(%)
定期健康診断		104,268	106,714	97.7
特定健康診査		1,479	1,662	89.0
全国健康保険協会管掌 健康保険生活習慣病予防健診		28,619	28,649	99.9
ストレスチェック		46,426	47,385	98.0
特殊健康診断		16,849	18,903	89.1
がん・ 追加 検診等	胃がん検診	31,575	32,871	96.1
	肺がん検診	18,591	17,991	103.3
	大腸がん検診	59,799	59,308	100.8
	子宮頸がん検診	1,819	1,722	105.6
	乳がん検診(マンモグラフィ)	1,430	1,594	89.7
	腹部超音波検査	11,480	11,122	103.2
合計		322,335	327,921	98.3

(3) 一般診療

診療科目	令和2年度(件)	令和元年度(件)	対前年度比(%)
内科・外科・放射線科	622	717	86.8

(4) 先天性代謝異常検査（県委託事業）

検査種別	令和2年度(件)	令和元年度(件)	対前年度比(%)
代謝異常検査	26,155	27,778	94.2
TSH(クレチン症)検査	25,658	27,297	94.0

(5) 精度向上・危機管理への取り組み

① 健診精度の向上

ア 人材の育成・職員研修の実施

財団職員の資質の向上並びに正確な検査の実施と的確な判断能力の維持・向上を図るため、職員に対する研修会を実施した。（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面により実施）

研修会名	回数	延参加人数
職員（全体）研修会・職種別分科会（書面開催）	1回	429人
医師研修会（書面開催）	1回	57人
日本消化器がん検診学会地方会（胃X線撮影技術研修）	4回	41人

※ 但馬地区健診従事者研修会は中止

イ 精度管理委員会の開催

胸部、胃部、マンモグラフィ検診の読影精度及び心電図の記録・判定技術の向上を図るため、財団で読影・判定業務に従事する医師を対象に専門委員会を開催し、検診実施状況報告及び画像症例検討等を行った。（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各委員との個別または書面により実施）

開催日	内 容	参加人数
12月7日（月） ～12月25日（金）	マンモグラフィ専門委員会（個別）	13人
2月8日（月） ～2月26日（金）	胃部エックス線画像専門委員会（個別）	9人
3月8日（月） ～3月26日（金）	胸部エックス線画像専門委員会（個別）	14人
	生理機能検査（心電図）専門委員会（書面）	8人
合 計		44人

ウ 外部精度管理評価の維持

県民に信頼される健診機関であるために、全国労働衛生団体連合会、日本医師会、結核予防会等による外部精度管理調査を定期的に受審し、精度の維持・向上を図るとともに、第三者機関による認定の維持に努めた。

【第三者機関による認定】

- ・人間ドック健診施設機能評価認定（日本人間ドック学会）
- ・労働衛生サービス機能評価認定
（全国労働衛生団体連合会労働衛生サービス機能評価委員会）
- ・日本消化器がん検診学会指導施設認定（日本消化器がん検診学会）
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定（日本乳がん検診精度管理中央機構）
- ・日本臨床細胞学会施設認定（日本臨床細胞学会）
- ・人間ドック健診専門医研修施設認定（日本人間ドック学会）
- ・人間ドック健診施設保健指導実施施設認定（日本人間ドック学会）

② 危機管理体制の運用

受診者が安心して安全で良質な健診を受けられる環境を整えるため、リスクマネジメント推進会議等において、健診等に関する事故やヒヤリ・ハット事例を分析し、事故の未然防止・再発防止策を検討した。

名 称	構成員	内 容	開催回数
リスクマネジメント推進会議	課長等	・事故内容の分析 ・事故防止対策の検討・提案等	11回
リスクマネジメント実践担当者会議	担当職員	・事故防止対策の実行、教育の実施	9回

③ 情報処理体制の強化

健診結果等情報処理システムの適正な管理を行うことにより、効率的な事

務処理に努めるとともに、迅速・正確かつ品質の高いサービスの提供に努めた。

④ プライバシーマーク認定の維持

セキュリティレベルの向上を図りつつ、個人情報の漏洩防止に組織的に取り組むことにより、個人情報保護に係る認定制度「プライバシーマーク」（一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC））認定の維持に努めた。

(6) 計画的な車両・設備の整備

耐用年数等を考慮し策定した更新計画に基づく検診車及び医療機器等の更新整備により、健診精度の維持・向上を図った。

〔主な整備内容〕

- ・ 子宮頸がん機材超音波洗浄装置・・・・・・・・・・ 1台
- ・ 眼底カメラ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1台
- ・ 心電計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2台
- ・ 屈折計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1台
- ・ 健診補助車両・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1台
- ・ 渉外用車両・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2台

2 保健指導の実施

(1) 特定保健指導

特定健診の結果に基づき、生活習慣を改善し健康の保持に努める必要があるとされた者に対し、生活習慣改善のための行動目標、行動計画を設定し、健康に関するセルフケアができるよう継続的に支援する特定保健指導を、オンラインによる遠隔面接を活用し実施した。

・ 支援別実施実人数

	令和2年度	令和元年度	対前年度比
動機付け支援	243人	650人	37.4%
積極的支援	290人	645人	45.0%
合計	533人	1,295人	41.2%

※当該年度中に指導を開始した実人数を記載

(2) 一般保健指導

人間ドックの受診者に対し、生活習慣改善の必要性などについて保健指導を実施するとともに、精密検査対象者への受診勧奨等きめ細かなアドバイスを行った。

また、健診当日に健康相談を希望する者に食事・運動などの生活習慣全般に

ついて実践的な指導を行うとともに、健診結果に基づき、運動や食生活指導を希望する者に対して、健診事後指導や個別健康相談を行った。

	令和2年度	令和元年度	対前年度比
施設内事後指導	1,195人	1,178人	101.4%
出張型事後指導	4人	3団体/44人	9.1%

3 健康増進施設の運営

(1) 五色県民健康村健康道場の運営

① 絶食・低カロリー食療法コース（入所）

3泊4日から、7日間、11日間、16日間、20日間コースなど、入所者の希望に応じた日数設定を行い、個々のニーズや健康状態に合わせたサービスを提供した。

	令和2年度	令和元年度	対前年度比
利用者数	527人	965人	54.6%
延宿泊者数	3,124人	5,490人	56.9%
平均宿泊日数	5.9日	5.7日	0.2日

※ 令和2年4月15日から5月24日の期間、入所者の受入を休止

② 生活習慣改善体験コース（日帰り）

県民が五色県民健康村健康道場を気軽に利用できる機会を提供するため、日帰りコースを開設した。

- ・内容 心身医学の講義、性格分析、丹田呼吸法

③ 利用促進施策の実施

ホームページの活用やメール、ツイッター及びフェイスブック等による広報を行ったほか、インターネット健康大学の開講やリピーター割引クーポン券の発行、年末・年始営業の実施により、利用者の確保に努めた。

なお、今年度は、新型コロナウイルスの感染防止措置として3人部屋、5人部屋をシングルユースとして使用したため、同部屋を活用する学生割引、期間割引については、実施を見送った。

ア インターネット健康大学

インターネットを活用した講義を開講し、「心身医学」を学ぶ機会を提供した。

イ リピーター割引クーポン券の発行

次回利用時に30%割引となるクーポン券を1人につき2枚発行した。

- ・発行枚数 1,054枚（令和元年度 1,930枚）
- ・利用枚数 298枚（令和元年度 485枚）

ウ 年末・年始営業

- ・営業日 12月29日～翌年1月3日
- ・期間中の利用者数

区 分	令和2年度	令和元年度	前年度比
入所者数	24人	39人	61.5%
延宿泊者数	149人	250人	59.6%

※延宿泊者数は、上記期間の入所者が前後の期間に宿泊した日数を含む。

4 調査研究事業の推進

(1) 疾病罹患状況等の分析

健診事業及び精密検査実施状況の追跡調査により得られたデータを集計し、がん検診等の実施状況、発見がんの状況等を事業年報により発信した。

- ・発行部数 500部
- ・配布先 行政機関、医療関係団体他

(2) がん登録事業（県委託事業）

① がん罹患情報等の審査・整理・登録

県内医療機関等から提出されるがん罹患情報等の審査・整理・登録を行い、兵庫県のがん対策の企画立案及び評価の基礎資料として活用を図った。2016年（平成28年）診断症例からは、全国がん登録として実施している。

〔全国がん登録〕

- ・届出件数 67,677件
- ・届出医療機関数 191機関
- ・遡り調査登録件数 1,394件
- ・住所異動調査登録件数 634件

② 全国がん登録実務者への研修

各病院及び指定診療所において全国がん登録業務に従事する者を対象に、全国がん登録業務の円滑な推進を目的に、「全国がん登録についての届出方法及び届出項目」に関する説明資料を更新し、配付した。

※全国がん登録実務者研修会は中止。

③ がん罹患報告書の作成

全国がん登録として最初の報告書となる「兵庫県のがん2016（平成28年）」及び「兵庫県のがん2017（平成29年）」を作成し、医療関係団体等に配布するとともにホームページに掲載し、2016年及び2017年のがん罹患及び死亡の状況等について発信した。

- ・発行部数 各報告書とも430部

5 ひょうご新型コロナウイルス対策支援基金の管理

6 金融機関に開設したひょうご新型コロナウイルス対策支援基金の口座を適切に管理し、兵庫県が開催した配分委員会の決定に基づき医療機関に配分した。

寄附金の受入・配分状況

- ・ 寄附件数・総額 3,866 件 615,795,021 円
- ・ 配分先・金額 (59 医療機関) 486,650,000 円 (令和 2 年 10 月 12 日配分)
 (振込手数料 45,320 円)
- ・ 基金残額 129,099,701 円